



株式会社セック

Systems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2020年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

2019年11月11日

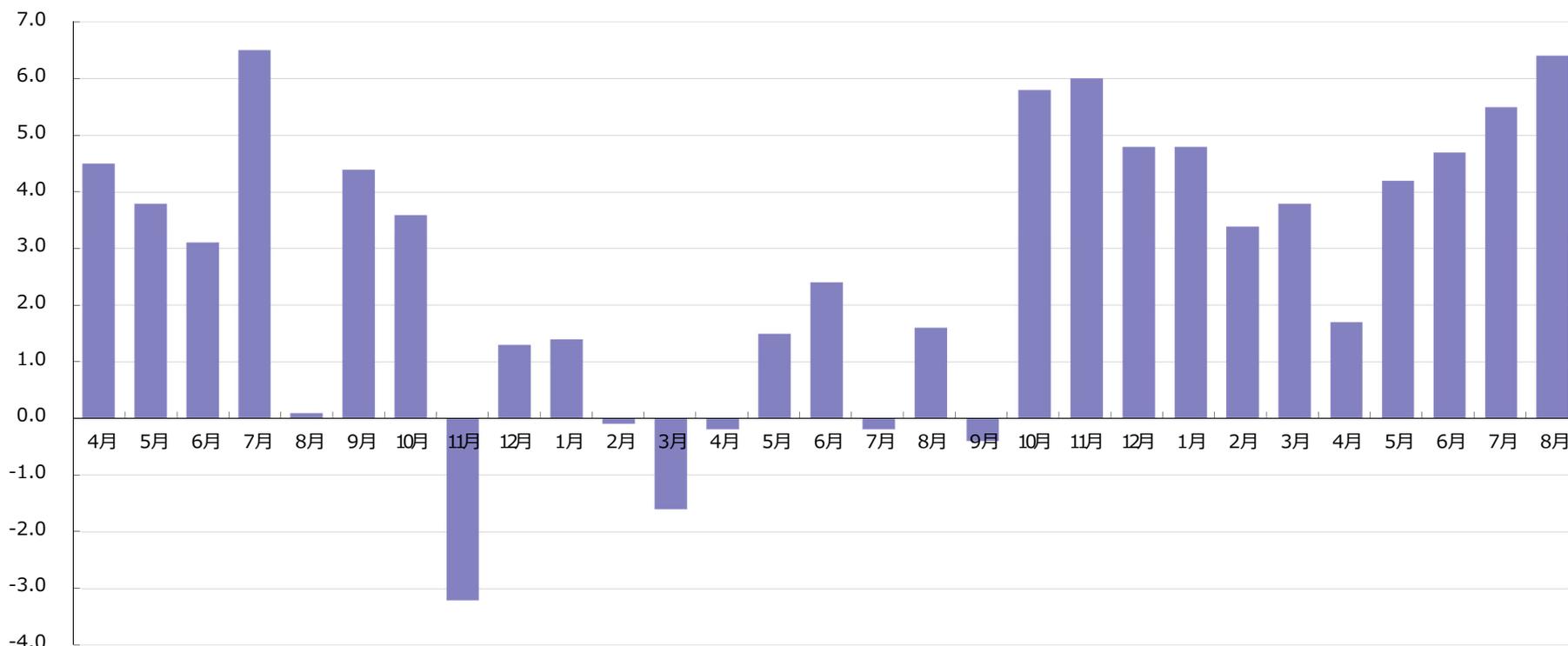
- 第2四半期決算概要
- 通期業績見通し

2020年3月期第2四半期 決算概要

2020年3月期第2四半期の事業環境

単位：％

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）



2018年10月以降、11ヶ月連続で増加しており、「IT需要は全体的には概ね堅調」と推察される。

2020年3月期第2四半期総括

売上高、利益面ともに過去最高、前年同期比で3期連続の増収増益

売上高	: <u>2, 890</u> 百万円	前期比	5.4%増		
営業利益	: <u>397</u> 百万円	前期比	20.7%増	利益率	13.7%
経常利益	: <u>432</u> 百万円	前期比	20.5%増	利益率	15.0%
当期純利益	: <u>302</u> 百万円	前期比	20.3%増		

受注高、受注残高ともに過去最高、前年同期比で受注高は3期連続、受注残高は4期連続の増加

受注高	: <u>3, 388</u> 百万円	前期比	13.1%増
受注残高	: <u>2, 539</u> 百万円	前期比	36.2%増

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 需要構造が変化し、モバイルネットワークBFから宇宙先端システムBFへ、売上高比率トップのBFが交代
- 移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少
- 官公庁案件をはじめとした社会公共分野の開発案件が増加
- ロボットの研究開発案件や宇宙天文分野の開発案件が増加

第2四半期損益計算書

	2019年3月期第2四半期 (百万円)	2020年3月期第2四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	2,743	2,890	105.4	2,800	103.2
売上原価	1,986	2,053	103.4	2,020	101.7
売上総利益	757	836	110.5	780	107.3
販売管理費	428	439	102.6	450	97.6
営業利益 (営業利益率)	329 (12.0%)	397 (13.7%)	120.7	330 (11.8%)	120.4
経常利益 (経常利益率)	358 (13.1%)	432 (15.0%)	120.5	360 (12.9%)	120.1
当期純利益	251	302	120.3	260	116.4

売上原価 社員数の増加とベースアップにより人件費が増加、外注費も増加
(外注費 8.9億円、前年同期比3.3%増、売上高外注比率31.0%、前期31.6%)

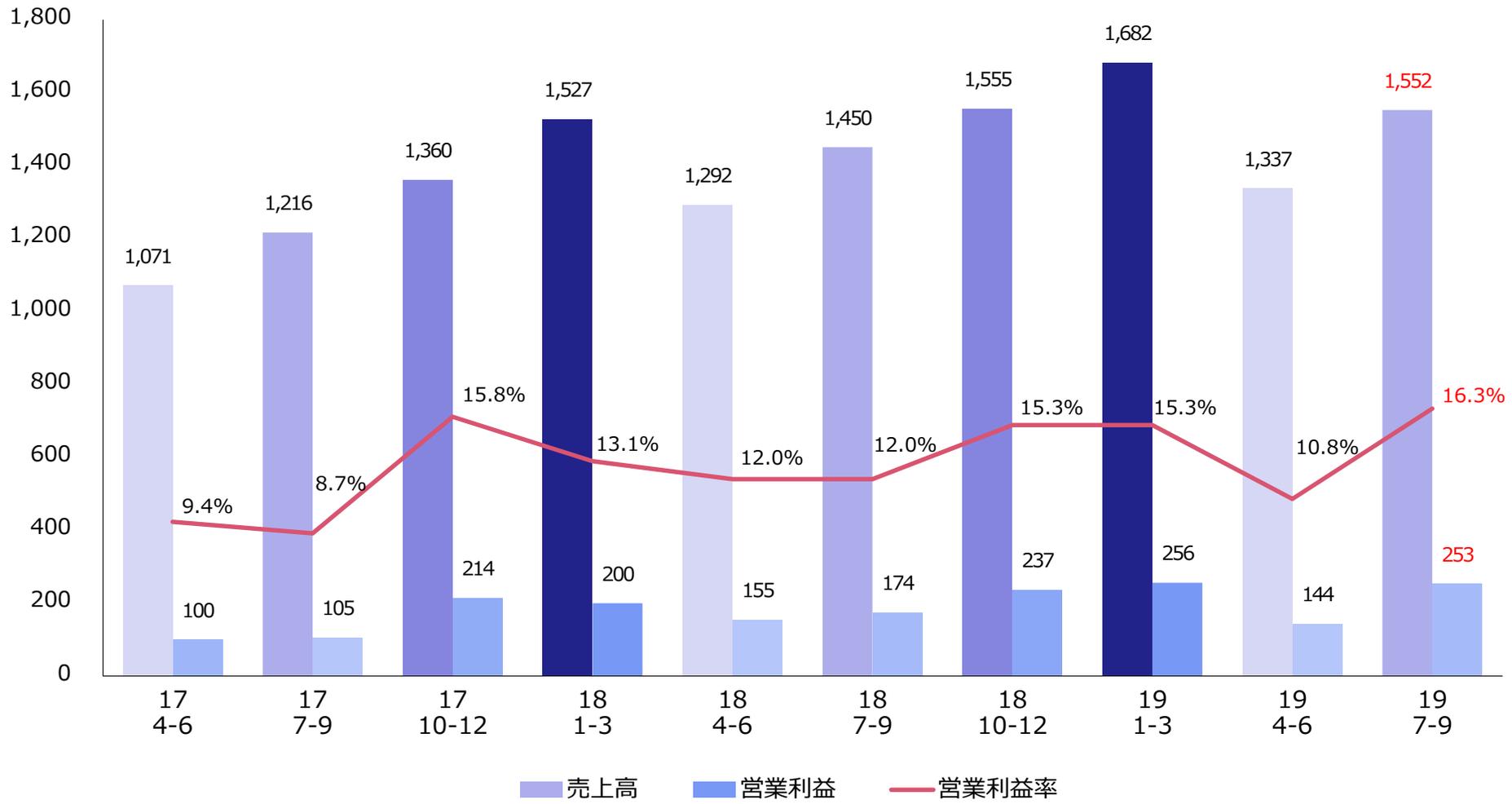
販売管理費 新入社員の増加などにより労務費が増加
研究開発費は41百万円で、前年同期比で10.3%減少

営業外損益 研究開発の補助金収入は11百万円（前年同期も11百万円）、受取出向料が増加

四半期業績推移 (PL)

8 四半期連続の増収増益のあと増収減益、再び増収増益へ (対前年同四半期比較)

(単位：百万円)

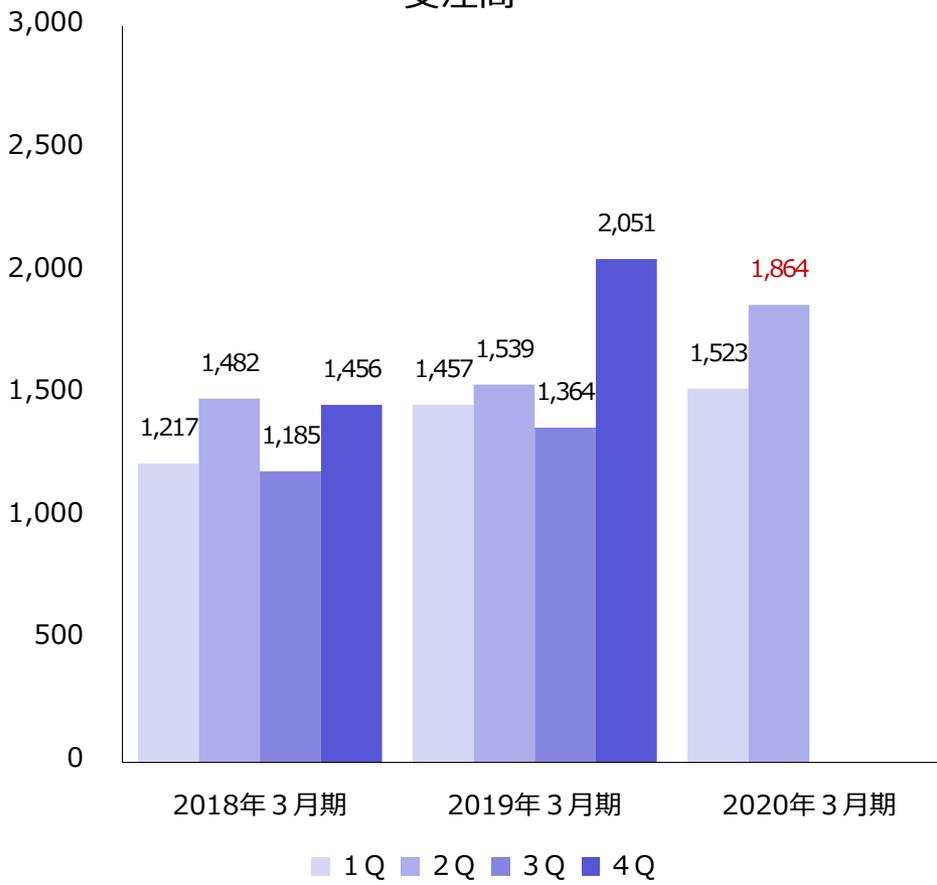


四半期業績推移（受注状況）

受注高、受注残高ともに過去最高（対前年同四半期比較）

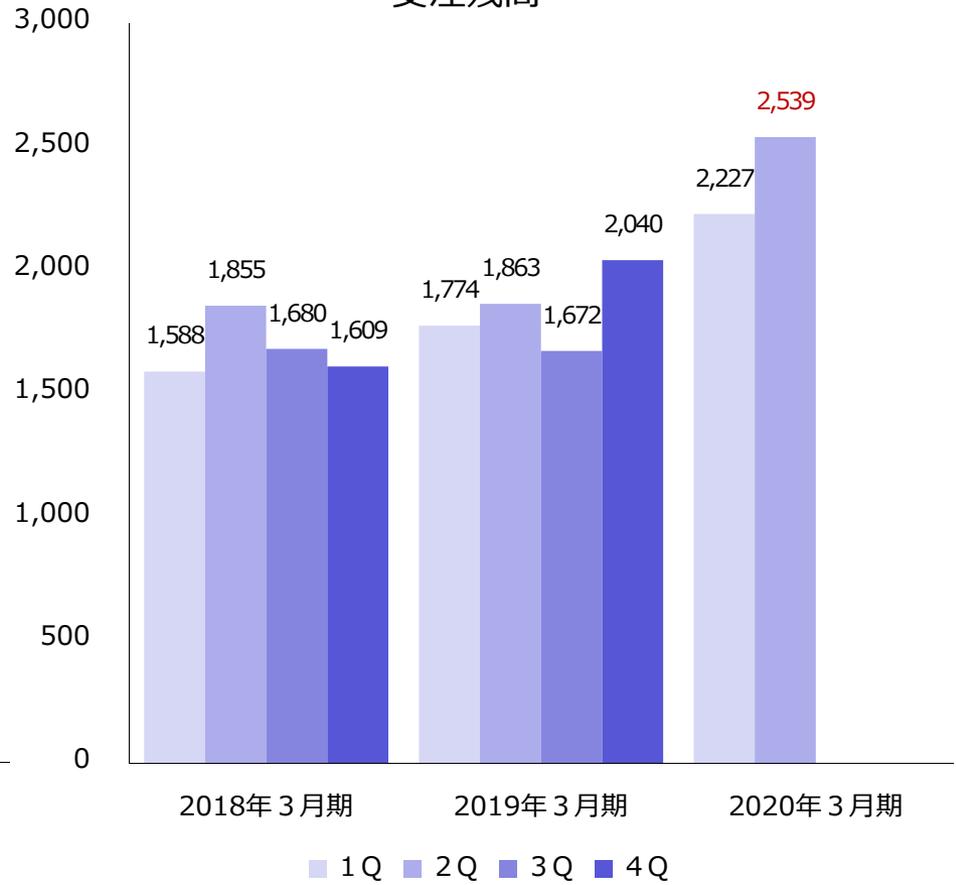
(単位：百万円)

受注高



(単位：百万円)

受注残高



第2四半期BF別の状況

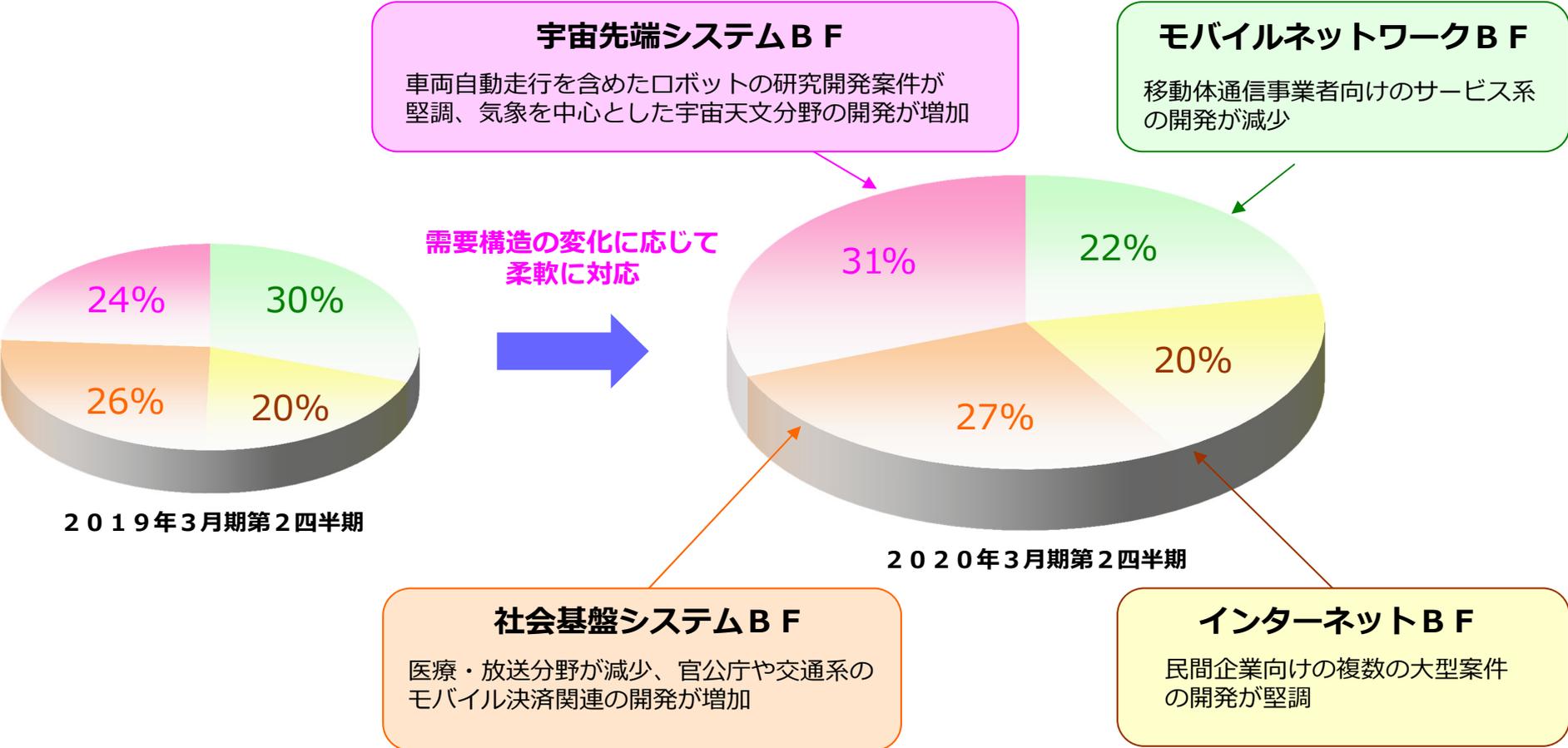
宇宙先端システムが大幅に増加

ビジネスフィールド	2019年3月期第2四半期		2020年3月期第2四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	836	30.5	632	21.9	75.6
インターネット	546	19.9	569	19.7	104.2
社会基盤システム	703	25.7	791	27.4	112.5
宇宙先端システム	656	23.9	896	31.0	136.7
合計	2,743	100.0	2,890	100.0	105.4

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少
- インターネットBFは、民間企業向けの複数の大型案件の開発が堅調
- 社会基盤システムBFは、医療・放送分野が減少、官公庁案件や交通系のモバイル決済関連の開発が増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調、気象を中心とした宇宙天文分野の開発が増加

第2四半期BF別構成比

需要構造が変化し、宇宙先端システムが売上高トップのBFへ



第2四半期末のB F別受注状況

宇宙先端システムが大幅に増加

ビジネスフィールド	2019年3月期第2四半期		2020年3月期第2四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	834	371	643	77.0	335	90.2
インターネット	609	296	635	104.2	339	114.6
社会基盤システム	812	793	881	108.5	1,179	148.6
宇宙先端システム	739	402	1,228	166.1	684	170.4
合計	2,997	1,863	3,388	113.1	2,539	136.2

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは1,984百万円、前期(1,632百万円)と比較し21.6%の増加)

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少し、受注高、受注残高ともに減少
- インターネットBFは、民間企業向けの複数の大型案件の開発が堅調で、受注高、受注残高ともに増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件や交通系のモバイル決済関連の開発が増加し、受注高、受注残高ともに増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行やロボット、気象を中心とした宇宙天文分野が増加し、受注高、受注残高ともに大幅に増加

2020年3月期 通期業績見通し

2020年3月期業績見通し

業績見通しを上方修正

(単位:百万円)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	5,981	6,200	103.7
売上原価	4,310	4,420	102.5
売上総利益	1,670	1,780	106.6
販売管理費	847	860	101.5
営業利益 (営業利益率)	823 (13.8%)	920 (14.8%)	111.7
経常利益 (経常利益率)	889 (14.9%)	990 (16.0%)	111.3
当期純利益	613	680	110.8

上期は売上高及び利益が計画を上回った。下期の当社を取り巻く今後の経済情勢及び市場動向は不透明ではあるものの、売上高及び利益面は当初計画どおりに推移すると予想し、10月28日に業績予想を修正した。

2020年3月期B F別業績見通し

宇宙先端システムB Fが通期でも増加の見込み

ビジネスフィールド	期初の見直し	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少傾向のため、若干の減少	➡	移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少し、ほぼ予想どおりの展開	➡
インターネット	非接触IC搭載ソフトウェアの開発やモバイル決済端末の開発が堅調で、前期並み	➡	民間企業向けの大型案件の開発が増加し、予想を若干上回る展開	➡
社会基盤システム	官公庁系の開発や防衛分野の商談が引続き堅調で、前期並み	➡	官公庁案件や交通系のモバイル決済関連の開発などが増加し、予想を若干上回る展開	➡
宇宙先端システム	車両自動走行の研究開発案件が引続き好調で、それにロボットの研究開発案件も増加傾向にあり、全体で増加	➡	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調、気象を中心とした宇宙天文分野の開発案件が増加し、予想を上回る展開	➡

ロボットビジネスの状況

実績 (2020年3月期第2四半期 売上高約608百万円
← 前年同期約514百万円 ← 前々年同期約285百万円)

車両自動走行は第2四半期で大幅に増加、サービスロボットの研究開発案件も増加し、全体で増加

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行研究ソフトウェアなどの開発案件が大幅に増加
⇒ 車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件も増加
- 大手自動車、電機、機械、建築メーカーからの実用化に向けての研究開発案件が堅調
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、自律移動ソフト（Rtino）、コンピュータビジョンソフト（Rtrilo）などを使った受託開発が主流
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、業務用掃除機など広範囲
⇒ 顧客層は拡大傾向

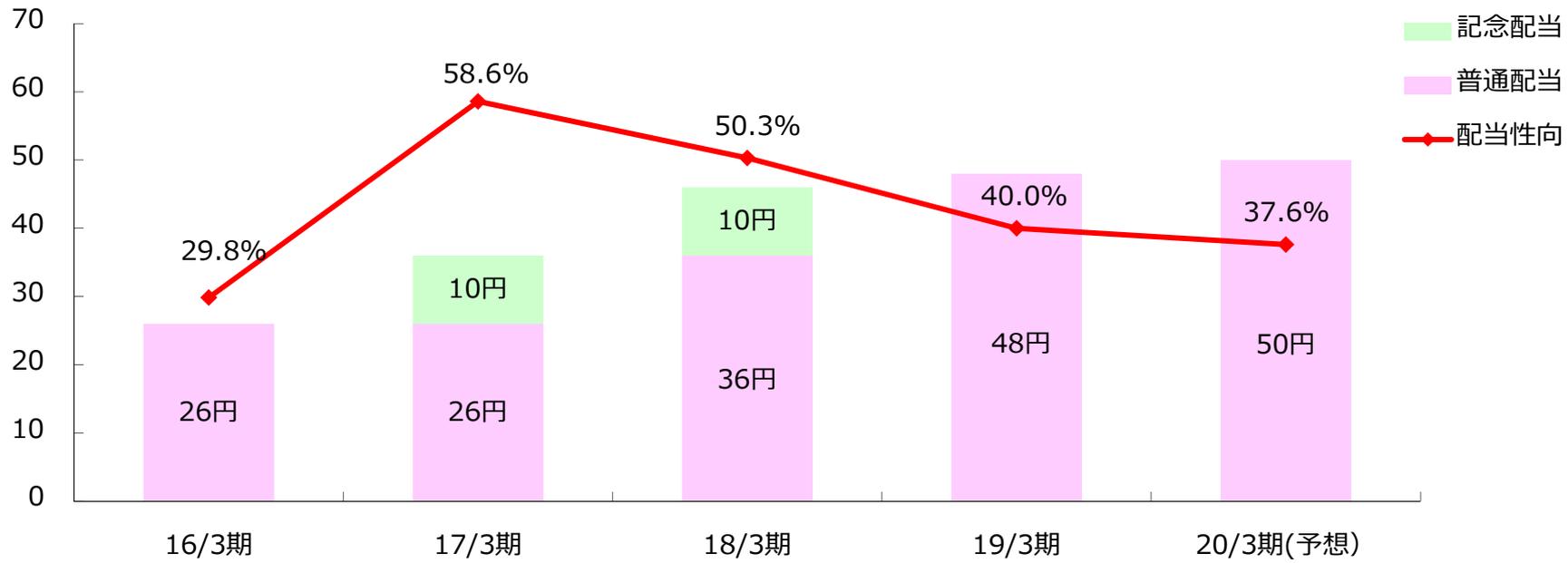
今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボット標準化技術（RTミドルウェア、ROS）ビジネスの推進
⇒ 試作機の開発、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など
製品+α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ロボット高付加価値化ビジネスの推進
⇒ ロボット+α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

配当の方針

- 配当性向は当面40%を目安とする。
- 2020年3月期は1株当たり50円の配当予想とする。



※ 2016年10月1日付で、1：2の割合で株式分割を実施していますが、2016年3月期の期首に株式分割を実施したものと仮定して配当金を表示しています。
 ※ 2020年3月期の配当及び配当性向は、2019年11月11日時点での予想値です。

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。